

## 船舶事故調査報告書

令和5年11月8日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 伊藤 裕 康（部会長）  
 委員 上野 道 雄  
 委員 岡本 満喜子

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（令和4年9月9日 06時00分ごろ～13時05分ごろの間）（死亡時刻：令和4年9月9日午前中（医師により検案された死亡推定時刻））
発生場所	青森県平内町浜子海水浴場北方沖 陸奥小湊漁港東防波堤灯台から真方位109° 1,300m付近 （概位 北緯40° 56.3′ 東経140° 59.8′）
事故の概要	漁船第五東龍丸 <sup>とうりゅう</sup> は、出港後、船長が落水して溺死した。
事故調査の経過	令和4年9月14日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第五東龍丸、0.6トン AM3-38231（漁船登録番号）、個人所有 6.03m (Lr) × 1.73m × 0.58m、FRP ガソリン機関（船外機）、30kW（動力漁船登録票による）、不明
乗組員等に関する情報	船長 76歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成6年7月6日 免許証交付日 平成30年11月6日 （令和6年7月5日まで有効）
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南東～北、風力 1～3、視界 良好 海象：波高 約1m
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、令和4年9月9日06時00分ごろ、刺し網漁の目的で、青森県平内町小湊漁港浜子地区（以下「浜子漁港」という。）を出港し、漁場に向かったのを浜子漁港で作業中の地元漁業者によって目撃されていた。 僚船船長は、13時00分ごろ、ふだん、出港後、約1時間で帰港する本船が見当たらなかったため、自船に同業者1人を乗せ、浜子漁港を出港して本船の様子を見に行ったところ、13時05分ごろ、同

	<p>漁港の東方に所在する浜子海水浴場北方沖の消波ブロック付近で海面に浮いている船長と本船を発見した。</p> <p>僚船船長は、船長を引き揚げようと思ったが、人手が足りないと考え、所属する漁業協同組合に本事故の発生を連絡して所属船による本船のえい航を依頼し、浜子漁港に戻って消防団員1人を乗せて再度発見場所に向かった。</p> <p>僚船船長は、既に来援していた所属する漁業協同組合の所属船から更に1人を乗船させ、船長を引き上げて浜子漁港へ搬送し、救急隊に引き継いだ。</p> <p>本船は、所属する漁業協同組合の所属船により、浜子漁港へえい航された。</p> <p>船長は、青森市内の医院に搬送された後、医師により死亡が確認され、死因は溺水で死亡推定時刻が午前中と検案された。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
<p>その他の事項</p>	<p>本船は、船外機に刺し網のロープが絡み、クラッチが前進の状態では機関が停止していたが、船体に損傷等はなかった。</p> <p>本船船内には、刺し網1組(2反約100m)があり、小魚が掛かっていた。</p> <p>船長は、発見時、防水型ではない携帯電話を携行し、救命胴衣を着用していた。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析</p>	<p>不明 不明 不明</p> <p>船長の死因は、溺水であった。</p> <p>船長は、06時00分ごろ、浜子漁港を出港した後、13時05分ごろ、浜子海水浴場北方沖で、海面に浮いているのを発見されたことから、この間に落水して溺死したものと考えられる。</p> <p>船長は、本船の船外機に刺し網のロープが絡み、クラッチが前進の状態では機関が停止していたことから、絡索した際の船体への衝撃等により、体勢を崩して落水した可能性があると考えられるが、本人が死亡して目撃者もおらず、落水して溺死に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が前進の状態では刺し網を揚網中、船外機に刺し網のロープが絡み、その衝撃で船長が、落水して溺死したことにより発生した可能性があると考えられる。</p>
<p><b>再発防止策</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小型漁船に1人で乗り組む船長は、防水パックに入れるなどの防水対策を施した携帯電話を常に身に付け、落水した際の連絡手段</li> </ul>

	を確保しておくとともに、作業時などに落水する場合がありますので、事前に縄ばしご等を装備した上で作業を行うことが望ましい。
--	--------------------------------------------------------------

付図1 事故発生場所概略図

